

若狭湾！子どもキャンプ！！

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
30	55	53	53

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・若狭湾の自然の中で思いっきり遊ぶことを通して、自然の素晴らしさを味わう。
- ・自然の中で、仲間と協力しながら様々な活動にチャレンジすることを通して、協調性や自立心を育む。

◆期日・期間

平成 30 年 10 月 27 日（土）～10 月 28 日（日） 1 泊 2 日

◆連携機関

福井、岐阜、愛知、滋賀、京都 各府県教育委員会

◆参加者分析

ボランティア自主企画で子どもの参加者を対象とする事業としては初めて行うので、近くの地域の小学校 3・4 年生に対して一人一部のチラシが届くよう広報を行った。その結果は、表 1 のとおりである。東京都からの応募があったのは、恐らく HP から見たのだと予想される。残念ながら、往復の交通手段に弊害があり、キャンセルとなった。

表 1. 応募者及び参加者の詳細

府県	京都		滋賀		福井		東京	
応募人数	2		4		48		1	
参加人数	2		3		48		0	
当施設の事業参加経験人数	経験あり	経験なし	経験あり	経験なし	経験あり	経験なし	経験あり	経験なし
	2	0	3	1	9	39	0	1

今回は、全部で 55 名の応募があり、2 名のキャンセルを除く 53 名全員を参加者とした。うち、39 名がこれまでに当施設の事業に参加経験のない者であり、受け入れることで新しい広報となったと考えられる。

各学年と男女比は表 2 のとおりである。

表 2. 参加者の学年及び男女比

	小学3年生	小学4年生	合計
男	16	12	28
女	12	13	25
合計	28	25	53

◆日 程

◆日 程 (受付: 10:30 ~ 開会式: 11:00 / 解散: 14:00)

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10月27日 (土)		受付	アイスフレイク はじまりのつどい	昼食 (食堂)		テント立て など オリエンテーリング		野外炊事		キャンプファイヤー		入浴 テントで寝よう	※ログハウス泊に なることもあります。
10月28日 (日)	6 テント片付け	7 起床	8 朝のつどい	9 朝食 (食堂)	10 ※染めたい物を各自で 持参します。	11 クラフト活動 (思い出の 染め物作り)	12 昼食 (食堂)	13 おわりのつどい ふりかえり	14	15			

○企画のポイント (日程・特色など)

1泊2日と短い期間の中で、野外炊事とテント泊を1日目に行うために、参加者の主体性と時間の短縮を図り、オリエンテーリングのゲームの一つに「テント立て」と「薪割り」を入れた。また、オリエンテーリング、野外炊事、キャンプファイヤーまでのストーリーがあり、参加者へのモチベーションを高めることができていた。

2日目のクラフト活動では、熱湯を扱うため参加者に十分注意を促すだけでなく、自由に遊びまわる時間をあえて作らないように、手順を全員一緒に確認しながら進めることで注意力も落とさず、事故や怪我なく進められた。染め物の完成度も高く、参加者全員が嬉しそうに家族に見せる様子が見られた。

◆運営のポイント

運営スタッフとカウンセラー・サブカウンセラーがうまく役割分担を行い、事前にしっかり準備を行ったことで、プログラムが事故や怪我なくスムーズに進んだ。また、スタッフが行うこと、参加者が行うことを前もって分けたことで、参加者の自主性も損なうことなく、参加者の満足度も得られた。

◆安全管理について

- ・班にはカウンセラー・サブカウンセラーの2名の大学生をつけたが、目が届かないなどの安全管理上、人員が必要なときなどは運営スタッフがサポートに入れるようコミュニケーションをよくとっていた。
- ・重度の卵アレルギーと重度の喘息を持つ参加者がいた。保護者と十分話し合いを行い、保護者も1泊することとし、食堂の店長とも十分打合せ、それらの事情をカウンセラー・サブカウンセラーに伝えた。食事の際は、職員も帯同し注意喚起を行った。
- ・活動前には「一人で行動しない」、「安全の装備を身に付ける」などの注意事項を話し、安全への意識を高めるようにした。
- ・何か、病気や怪我があった際は、保健係の職員やその他の職員に必ず報告することとした。解散時には、保護者に必ずその経緯を伝えることとした。

3. アンケート結果

＜参加者＞

項目	4	3	2	1	未記入
事業全体をとおしてどうでしたか	100%	0%	0%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

4. 成果と課題

【職員】

- 1班9人と異例の多さではあったが、カウンセラー・サブカウンセラーがよく参加者をみており、大きな事故や怪我もなく、プログラムも順調に進んだ。
- ストーリー性のあるプログラムの進行で、参加者の動機付けもでき、班内のコミュニケーションも活発となった。1泊2日の短い期間でも十分な仲間づくりができ、協調性が育まれたように思う。
- 担当する職員のサポートを受けながらも、一から最後まで事業を終えることができ、この事業を通して、普段学べないような企画力や運営力、子どもに対する見取り、接し方など、様々な視点からそれぞれが学んでいることがわかった。
- 各大学から成る「若狭湾ボランティア」をどのように組織立てていくことが今後重要となる。今回は佛教大学が主となったが、若狭湾ボランティアとして組織が形成されることで、ボランティア育成における計画が立つように感じた。普段の事業でのボランティア活動で培う知識や経験が、この自主企画キャンプで発揮できるような仕組みが必要である。

【学生ボランティア】※以下は、学生ボランティアの事後アンケートより抜粋および要約

- 自分たちが企画運営をするということもあり、いつもより自分の責任感もより強く活動に取り組めたかなと思った。スタッフの共通理解を図るために、ミーティングの日をもっと早めに設定したり、ミーティングで決まったことの共有を随時する必要があった。(三田村)
- 野外炊事でうまくご飯が炊けなかった。なるべくみんなで作ったご飯は美味しいと思ってもらえるようにボランティアの野外炊事のスキルやお米の美味しい炊き方を確認しておくべきだった。(森田)
- カウンセラー・サブカウンセラーを各班男女にするべきだった。(金川)
- 持ち物で、リュックではなくキャリーバッグで、岩の沢へ運ぶのに苦労している参加者が数名いた。事前にリュックサックで来るよう伝える必要があった。(大石)
- 班の人数が多く良い経験にもなった。重度のアレルギーと喘息を持つ参加者がおり、大変だった。(森本)
- 一から事業を作り上げていくという想像もつかないキャンプだったが、準備の段階でキャンプの案内の送り方から、費用の仕組みのことなど普段知れないことをたくさん学ぶことができた。みんなと意見を出し合って作り上げていく面白さを感じた。子供のそれぞれの特徴をつかんでうまく班付きをすることができた。ねらいにある「自然に触れ合ってもらうこと」は、寒くなった若狭湾では難しかったが、メインである食材集めゲームで子供たちが楽しそうに活動している様子などを見てとても嬉しく感じた。臨機対応に動くことができる他のスタッフからたくさん刺激をもらい、若狭湾の自然の中で楽しんでもらっている子供たちの姿を見てキャンプの大切さややりがいを感じた。(島津)
- 怪我をさせてはいけない、でも助けすぎてもいけない、1人に構いすぎることもしない、と他の事業とは違った不安があった。私自身すごく楽しめたがまだまだだなと思うことも多々見つけることができた。事業の最後に子どもと保護者に挨拶をして送り出すのがとても良かったと思った。(井原)
- ボラの企画力、当日の対応力、子どもたちの意欲に助けられた。安全管理、子どもへの指導の偏りを考え、一班に9人は無理があった。(妹尾)
- 今までを振り返り、これからを考える良い機会となった。事前に学生同士でミーティングを調整する必要があった。他の事業でももっと積極的に先読みをして動こうと思った。(安田)
- 持ち物で、野外炊事やクラフト活動の際に着るための「汚れても良い服」を加えた方がよ

かった。(原)

- 子どもたちの反応もとてもよく、いきいきとしていたので良かった。もう少し早い段階で必要備品などのイメージを伝え、細かく整理して連絡を取り合えたらよかった。(山口)
- 最終日に班の中で喧嘩があった。前日のミーティングの際に全員に相談しておけばよかった。(乾)
- 子どもとの距離が近く、充実したキャンプだった。クラフト活動の際、事前にしっかり参加者の持ち物を確認すべきであった。(那須)
- キャンプファイヤーの意味を考える大切さや、目当てに向けての持っていく方などを考えることの難しさを感じた。(小松)
- 当日の天気によって行動範囲の変更はすべきだった。参加者の名札の制作時間をしっかり確保できたらよかった。(四ツ谷)
- ゲームやクラフト活動で、子どもたちの想像力、創造力を引き出すことができたが、それを共有する時間があつたら良かった。(黒瀬)
- 事前の準備やバックアップスタッフとの連携がうまくいかなかった。キャンプ中もスタッフミーティングが必要であった。学ぶことばかりで良い経験になった。(湯川)
- キャンプが始まって運営側の準備が足りていなかったと感じた。今後、他の事業で自然の家の職員が準備している姿やタイミングを学んでいきたい。これらの反省点を次に繋げていきたい。(長村)
- 初めての試みで、キャンプの見通しが持てず、不安であった。他のメンバーのおかげでやり通すことができた。時間にゆとりがあるプログラムであったため、多少の時間のロスは問題にならなかった。

5. 活動の様子 写真(数枚)

【オリエンテーリングの様子】



【野外炊事の様子】



【クラフト活動の様子】

